

2022年11月4日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

## auじぶん銀行 日本サービス業PMI®

及び、auじぶん銀行 日本複合PMI®

# 日本のサービス業の業況はより速いペースで成長

### 主な動向

事業活動と雇用の成長が加速

購買コストのインフレは記録的ペース

景況感は調査史上最高値に迫る水準で推移

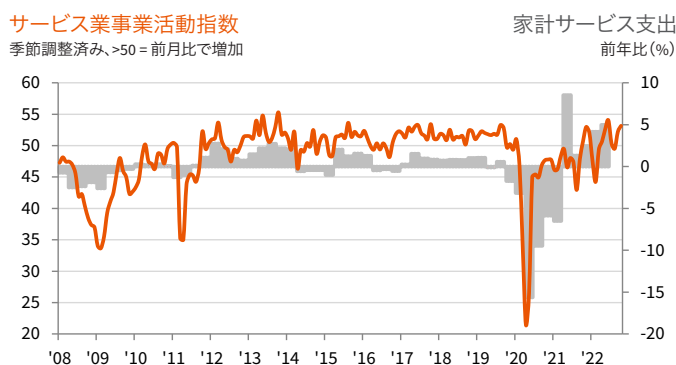
データ収集期間：2022年10月12～26日

10月の日本のサービス業の事業活動と雇用は、より速いペースで増加。全国旅行支援の開始と外国人観光客の渡航制限緩和が需要を高め、事業活動の成長を促した。日本のサービス業は現在の需要が今後も継続すると期待しており、企業の見通しは調査史上最も高い水準で推移した。しかし、記録的な購買コストのインフレにより価格の圧力は悪化。調査回答企業は引き続き平均間接費の一部を顧客に転嫁したと報告し、サービス単価のインフレは調査史上最高水準で推移した。

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバルがサービス業約400社からの調査回答を基にまとめたものである。対象セクターには、消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれる。

主要指標はサービス業事業活動指数で、事業活動量が前月比でどう変化したかを示す。数値が50を超えれば全体として前月比で増加したことを、50を割り込めば減少したことを意味する。

10月のauじぶん銀行日本サービス業活動指数は9月の52.2から53.2に上昇し、日本のサービス業の事業活動が2か月連続で成長したことを示した。調査回答企業らは、事業活動の成長について直近の需要増加による影響を指摘したが、新型コロナによる影響からの持続的な回復も成長を後押ししたとコメントを寄せる企業もあった。



同様に、10月の新規事業も2か月連続となる成長を記録した。企業の実態をみる限り、日本国内の旅行者増加は政府による全国旅行支援、海外からの旅行者増加は入国受入再開がそれぞれ後押ししていたことが指摘された。また、新型コロナによる影響からの持続的な回復が需要増に寄与していたとの声も寄せられた。一方、10月は新規輸出事業も増加した。

新規事業の拡大の中、雇用者数と受注残も共に増加した。雇用増加率は過去5か月間で最大となり、主に増加する業務増大への対応が必要だった事が要因だった。一方で、企業らは増加する需要への対応に苦戦しており、受注残は3年ぶりとなる3か月連続の上昇を記録した。

日本のサービス業は、価格面で依然として厳しい状況に置かれている。購買コストのインフレ高進は記録的なペースで、原材料やエネルギー、燃料などを中心とした、多岐にわたる購買品の価格上昇を要因としている。さらに増える平均間接費に対応するため、企業らはサービス単価を調査史上最速に迫るペースで増加した。

現状のインフレ圧力にもかかわらず、日本のサービス業は10月、今後12か月にわたる業況見通しについて強気の姿勢を維持した。景況感は実に過去4か月間で最大となり、調査史上最高水準で推移した。調査回答企業らは、現状の需要が今後も継続するだろうとの期待をコメントに寄せた。

## auじぶん銀行 日本複合PMI®

## 高インフレの中、民間企業の生産高は強い成長

製造業とサービス業の複合生産高を測るauじぶん銀行日本複合\*PMI生産高指数は、10月に51.8を記録。9月の51.0から上昇し、日本民間企業で生産高が2か月連続で成長したことを示した。

民間企業の成長の要因は、観光業界の成長促進を狙う政府の全国旅行支援策により、事業活動と新規事業が大幅に成長したサービス業である。対する製造業は、生産高と新規受注数が共に減少し、業況を圧迫した。

民間企業の複合雇用指数は10月に増加し、過去5か月間で最大だった。一方で受注残は3か月連続の増加を記録した。

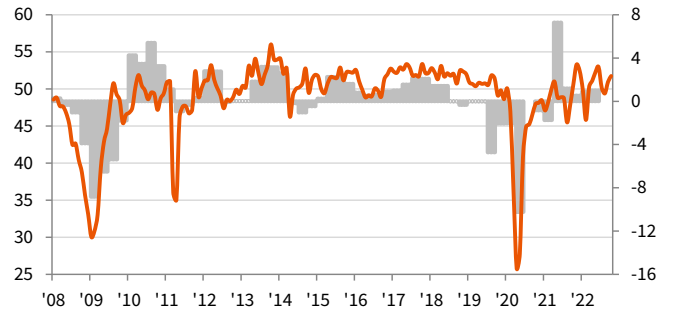
第4四半期に入っても、インフレ圧力は依然強く、購買コストと販売単価のインフレは共に調査史上記録的な水準で推移した。

しかし、企業らは今後12か月にわたる生産高の見通しについて強い楽観的な見方を維持。景況感も調査史上最高値に迫る水準で推移した。

\* 複合指数は製造業とサービス業それぞれの指数を加重平均したものである。加重値は、GDP公式データに基づく製造業とサービス業の相対的規模を反映している。日本複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業活動指数の加重平均である。

複合生産高指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で増加

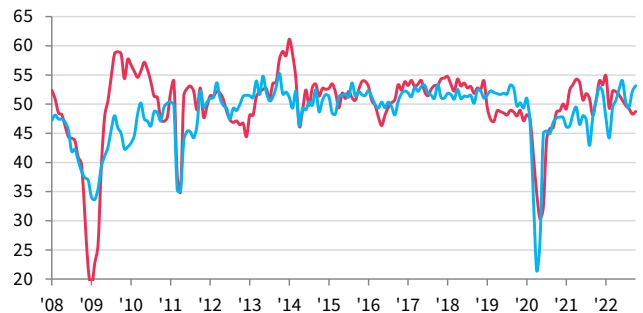
GDP  
前年比(%)

出典: auじぶん銀行、S&amp;Pグローバル・インク、内閣府

製造業生産高指数

サービス業事業活動指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、S&amp;Pグローバル・インク

## コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Laura Denmanによる最新調査結果についてのコメント

「日本のサービス業の事業活動と雇用が10月に急上昇をみせる中、業況は速いペースで成長した。調査回答企業らは、直近の回復は主に観光産業の成長と、それに伴う需要の増加に後押しされたことを指摘した。外国人観光客の入国制限解除と、政府による全国旅行支援が日本国内の旅行者増加を促した。旅行者数は今後数か月にわたり増えていくとみられることから、日本のサービス業における継続的な業況回復が期待される。

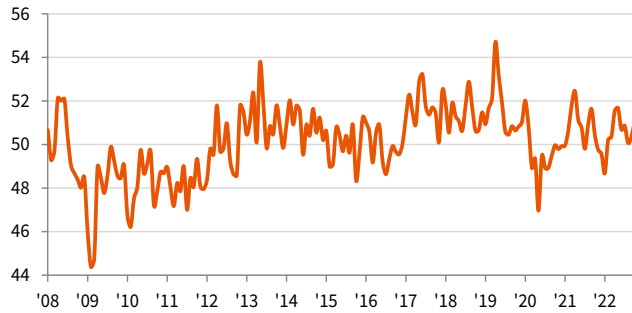
企業らは、今後12か月にわたる事業活動の見通しについても楽観的で、強気の姿勢を

維持した。現状の需要動向が今後も継続するだろうとの期待が高まる中、景況感は調査史上最も高い水準で推移した。

しかし、日本のサービス業を襲うインフレ圧力が景気の下振れリスクとして潜在している。調査史上最高水準に迫る勢いの購買価格インフレは、近いうちにもサービス価格に反映されるとみられ、需要低迷の要因になる可能性がある。」

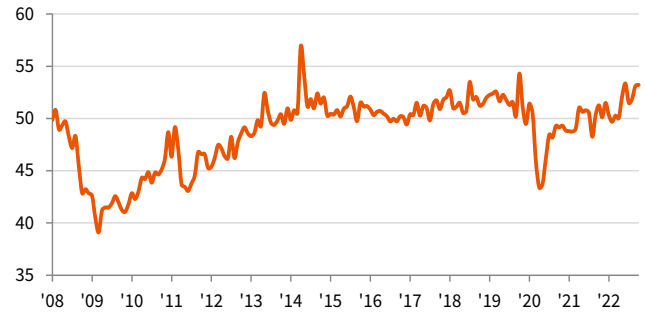
## サービス業雇用指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で増加



## サービス単価指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で上昇



## お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行  
[Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp](mailto:Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp)

Laura Denman  
 エコノミスト  
 S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス  
 電話: +44-134-432-7221  
[laura.denman@spglobal.com](mailto:laura.denman@spglobal.com)

SungHa Park  
 コーポレートコミュニケーションズ  
 S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス  
 電話: +82 2 6001 3128  
[sungha.park@spglobal.com](mailto:sungha.park@spglobal.com)

## 調査方法

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバル・インクがサービス業約400社からの調査回答をもとにまとめています。対象セクターには消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれます。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数はサービス業事業活動指数です。これは、事業活動量の前月比での変化についての回答から算出する拡散指数(ディフュージョン・インデックス)です。サービス業事業活動指数は製造業の生産高指数に匹敵します。「サービス業PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業事業活動指数の加重平均です。加重値は、GDP公式データに従った製造業とサービス業の相対的規模を反映したもとなっており、複合生産高指数は「複合PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じ修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2022年10月のデータ収集期間: 2022年10月12~26日。

## PMI(購買担当者指数)

購買担当者指数™(PMI®)調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、[ihsmarkit.com/products/pmi.html](https://ihsmarkit.com/products/pmi.html)をご覧ください。

## 免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱落(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

PMI®

by S&amp;P Global

© 2022 S&amp;P Global

## auじぶん銀行日本PMIのスポンサーはauじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専業銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

## S&amp;Pグローバル・インクについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモディ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク、分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: [www.spglobal.com](http://www.spglobal.com)

S&Pグローバル・インクのプレスリリースを受け取りたくない場合は、[katherine.smith@spglobal](mailto:katherine.smith@spglobal)へお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。